

会議録

令和7年1月22日提出

会議の名称	西東京市公民館運営審議会 令和6年度第6回定例会
開催日時	令和6年10月16日(水) 18時30分から20時30分まで
開催場所	柳沢公民館 視聴覚室
出席者	委員：西原みどり(会長)、小須田厚子(副会長)、高橋浩一、高井正、荒井容子、荒井茂、小池教之、下坂小百合、石川健、青木美紀子、ギログリー江美、城石雅行、松本静 職員：福所館長、市川事業係長、山本分館長(田無)、根岸分館長(芝久保)、一之瀬分館長(谷戸)、安島分館長(保谷駅前)
欠席者	辻康一
議題	1 審議事項 (1) 令和6年度第4回定例会会議録(案)について(資料1) (2) 令和6年度第5回定例会会議録(案)について (3) 令和5年度西東京市公民館事業評価について(資料2) 2 主催事業について (1) 令和6年度公民館主催事業報告について(資料3) (2) 令和6年度公民館主催事業計画について(資料4) 3 報告事項 (1) 行政報告 (2) 公民館だより編集室報告 (3) 東京都公民館連絡協議会委員部会運営委員会報告 4 事務連絡及び情報交換 (1) 令和6年度第1回利用者懇談会について (2) 東京都公民館連絡協議会委員部会研修会について (3) 令和6年度西東京市公民館運営審議会委員研修について (4) その他 (5) 令和6年度第7回定例会の開催について
会議資料の名称	【配付資料】 資料1 令和6年度第4回定例会会議録(案) 資料2 令和5年度西東京市公民館事業評価表(案) 資料3 令和6年度公民館主催事業報告書 資料4 令和6年度公民館主催事業計画書 令和6年度第4回都公連委員部会報告 ほか
記録方法	☐ 全文記録 ☒ 発言者の発言内容ごとの要点記録 ☐ 会議内容の要点記録
傍聴者	☒ あり(名) ☐ なし
会議内容	
1 審議事項 (1) 令和6年度第4回定例会会議録(案)について(資料1) ●令和6年度第4回定例会会議録(案)について承認 (2) 令和6年度第5回定例会会議録(案)について ●令和6年度第5回定例会会議録(案)については、各自内容を確認し、1週間以内を目途に修正、意見がある場合、事務局に連絡することとする。 (3) 令和5年度西東京市公民館事業評価について(資料2) ●令和5年度西東京市公民館事業評価について承認	

2 主催事業について

(1) 令和5年度公民館主催事業報告について(資料3)

○A委員

夏休みの子どもを対象とした事業で、「夏休み青少年ウィーク～涼しい公民館で高校生と一緒に充実した夏休みを！～」（谷戸）、子ども対象講座「こわーいお話を聞く会」（ひばりが丘）について、内容を見ると近隣の中高生のボランティア協力が素晴らしい。特に「夏休み青少年ウィーク」（谷戸）は昨年からの引き続きで、友だち同士の引継ができていのかと思う。初回の投げかけは大変かもしれないが、1回かかわった子どもたちは、その体験を後輩などに語り継いでいて、つながっているのだろうという実感がある。素晴らしいと思った。子ども対象講座（ひばりが丘）の方は、話をする方は高齢であるにもかかわらず、小学生がたくさん聞きに来ていた。それを周辺で中高生ボランティアが、そのギャップを埋めるかのように、いろいろな製作物で支えてくれた。とても微笑ましい事業になっている。地域あげての世代を越えた交流を実現できていて、なぜできるのだろうと思った。この地域は子どもたちが多く、新しい住民もとても多い地域。その地域性を活かした事業ができていことが大変すばらしいと思った。

○B委員

「夏休み青少年ウィーク」（谷戸）について、担当の考察の中に「昨年度メンバーが受験生となり、後輩につながりを継続して実施」とある。実際に参加したメンバーが前向きで主体的な取組をされているということで、学校以外の場所でこうした繋がりや継続ができていことにとても感動している。地味に手間がかかることに取り組んでいる高校生がいることに感動している。

子ども対象講座（ひばりが丘）について、怖いお話を聞くほうもボランティアの中高生の感想に「立場関係なく相談や話ができるのが新鮮で嬉しい」、「人との関わりを深めることができた」とある。高校生がこういう感想を出してくれるのもとても誇らしいと感じた。

○C委員

この2つの中高生が活躍する事業については、私も共感する。ほかにも、夏休みの平日を利用して企画した事業に、子ども対象講座「アルキメデスのとびら～ナゾとき算数～」(芝久保)、親子講座「竹けん玉と竹とんぼづくり」(保谷駅前)がある。例えば、子ども対象講座(芝久保)は、子ども対象としなくても良いのではないかなと思う。ご高齢の方で数学のことを勉強したい方がいるかもしれない。子ども目線で子どもにわかりやすいように講座が行われて、そこに大人も入って改めて勉強するのもいいのではないかな。そういう点でいうと、親子で楽しむ講座「谷戸セミナーⅦ セミの羽化観察会」は親子対象だが、子どもがいない人や高齢者、若者が来てもよいのではないかな。大人単独で見に来るのもよいだろう。子どもや親子をターゲットに講座を実施したいのだろうが、制限する必要はないかなと思う。制限しなければ、もう少し面白く豊かになるのではないかな。もう一つ付け加えれば、子どもでも、親が働いている場合は、夏休みの昼間は学童クラブに行っていて、公民館以外に学ぶ機会、楽しむ機会がある。結果的に、公民館主催事業は、そういう所に行っていない子どもが対象となる。また、親子対象とすると、昼間、親子が一緒にいることが前提で、制限を設けることになる。そこを広げるのか。それとも、単純に子ども対象、親子対象とするのがよいのか、考えた方がよいと思う。

○分館長(芝久保)

子ども対象講座(芝久保)について、担当者が実際に他市で実施された同内容の講座の見学に行った際に、親がスマホをやっていたり子どものことを気にし過ぎたりしていて、その状況が良くなかったことを踏まえ、子ども対象とした。今回の感想を見ていただくと分かると思う。今、委員からいただいた貴重なご意見は、今後につなげていければと思う。

○C委員

武蔵野市で実施された同内容の講座が親子を対象としていて課題があったので、子ども対象としたという理解でよいかな。

○分館長(芝久保)

そうである。

○C委員

子ども対象講座（芝久保）について、「講義中に騒がしい児童がいたので対応の難しさを感じた」とあるが、子どもは自発的に来たのか。親に行くように言われたのではないか。

○分館長（芝久保）

発達に若干課題があるお子さんだったようで、席の位置等に配慮が必要だったのだと思う。基本的には子どもたちが発言し、自分とは異なる考えもあることを知る場であり、講師が、一方通行にならないように講座を運営してくださった。

○B委員

校長先生にお聞きしたい。社会教育と学校教育では異なるが、いくつかの子ども向けの講座について感想をお伺いしたい。

○D委員

周知の仕方、変わってくるのではないかと思います。恐らく保護者や地域の大人を対象とした広報が行われ、児童や生徒が自ら情報を掴むことは少なかったであろうと推測できる。保護者が子どもに講座に参加するように言葉がけをした場合、ほとんどだったのではないかと。子ども対象講座（芝久保）で騒がしくなる子ども、課題がある子どもがいたということだが、算数という教科の特性で、自閉系スペクトラムのお子さんで、すごく数字に興味を持つことがあり、そういう子どもが参加している可能性はある。自分の考えを聞いてくれとか僕はこう思っているんだと話をする子どももいる、数学や算数を取り上げる場合、そういう特性のある子どもが集まる可能性があるということを理解して講座を実施することも秘訣ではないかと思う。

○B委員

私も親に行くように言われて参加したのではないかと思います。子どもたちの感想を読むとすごく面白そうで、大人も行ってみたいと思う内容だなと思った。感想を読むと、夏休みに子ども対象で継続実施していくのも面白いのではないかと思った。

○C委員

今の話を伺って思ったが、わかりやすい言葉で子どもに直接伝える方法を工夫する必要があることが課題だと思う。どのように伝えるかは、先生方に相談するとよいと思う。また、子どもだけを対象としないで、祖父母や保護者以外の大人も参加できるかたちにとすると、一緒に共感したり、大人が子どもをサポートしたりできて、とても面白い空間になるのではないかと思います。ぜひそういうふうに挑戦していただきたい。

○E委員

私が所属している落語サークルでは、今年の夏から、公民館と共催で、市民に落語を楽しんでもらう講座を実施している。落語だけでは子どもたちを惹きつけることはできないため、今年の8月は、マジックのサークルの方とコラボして、2回ほどワークショップ形式で行った。子どもたちが落語の小話を覚えて自分でやってみたり、材料を自分で手作りしてマジックを披露したりした。祖父母にそれを見てもらうなど楽しみが広がった。9月には下保谷の旧D家屋敷林で、子どもは竹細工、大人は屋敷の奥座敷で落語を楽しむという会をした。私たちの会は、以前は、自分たちが覚えた落語を披露することだけを目的としていたが、自分たちだけが満足するのではなく、サークルの活動が「開かれた公民館」というところで実践できていると、自信を深めた夏だった。

○F委員

子ども対象講座（芝久保）は、計画書が提出された段階で、算数という学校の教科を取り上げることをどう考えるかという点が公運審で議論をされ、学校教育の補完、学習の単なる支援にならないよう、公民館ならではの企画をという話が出ていたと思う。素数ゼミや1時間はなぜ60分なのか、1周はなぜ360度なのかなど、自然や身近なことをテーマにして子どもの関心を引き、その結果、2回とも欠席者がいなかったようで、学ぶということそのものの一番の種になる好奇心を刺激する内容になっていたと思う。アンケートに「面白くて家の人に話したい」「他の人に話したい」「塾や学校でやらない内容であった」ということが書かれており、公運審の議論を踏まえて、担当の方に苦心いただいたと思う。御礼を申し上げたい。

○G委員

子ども対象講座「こわーいお話を聞く会」（ひばりが丘）に参加したが、世代を越えて皆で一つのものに向かってやっている姿が素晴らしかった。一番感動したことは、装飾するにあたって、それを担当した中高生が、主役はお話なのでそこを遜色しないように気をつけたという

こと。公民館で好きなように怖い装飾をしていいとなったら、楽しくてやりたい放題してもおかしくないが、節度を持ってやったということが素晴らしいなど。本当にその通りの結果が出ていて、来場者は装飾に目を向けるけれど、話が始まればきちんと聞いていた。そういったところも来てくださった方の感想につながっているのかと思う。

親子講座「竹けん玉と竹とんぼづくり」（保谷駅前）について、参加者の感想欄に、ナイフの使用をめぐって、ナイフを使ったことが楽しかったという感想がある一方、子どもたちはナイフを使い慣れていないので中学生くらいからが良いと思うという意見もある。ケガするかもしれない可能性があるとても慎重になると思うが、こういった機会を作られたのは、良かったと思う。今後も、普段やらないことに挑戦できる機会があればよいと思う。

○H委員

公民館主催講座は、担当者が企画しているのか。担当者は、専門的な知識を持っていて、企画するのか。

○事業係長

公民館主催事業は事業計画に基づいて、各館で話し合っただけで検討した上で、個々の講座については、担当者が企画している。市民とのかかわりの中で課題をとらえて企画する場合もある。担当者が素養があって、そこから企画する場合もある。

○分館長（芝久保）

担当の公民館専門員は、今までも同様の内容の講座を実施してきていて、積み重ねてきた経験や知識を活かして今回の講座を企画した。さらに館内で検討して、企画をまとめた。公民館専門員は、地域での情報収集を心がけて、講座を企画している。

○H委員

落語の歴史や相撲の歴史を取り上げた講座を企画していただけたらと思う。

○C委員

夏休み青少年ウィーク（谷戸）について、参加者の評価欄にとってもよい感想が記載されているが、スタディランチは何をしたのかをお聞きしたい。

○分館長（谷戸）

スタディランチは、「夏休み青少年ウィーク」の間、毎日、お昼の12時から30分間、高校生ボランティアが小学生に向けて話をするという企画で、話のテーマは高校生ボランティアが自分たちで決めた。参加した小学生は、話を聞いてその場で話し合い、発表していくというスタイル。テーマは、「視覚障害者が日常生活で抱える問題について知ろう」、「水泳の魅力とは」など。「日本の給食と世界の給食を比べてみよう！」というテーマの日は、パワーポイントを使用して日本国内の給食の紹介や世界各国の給食事情などの話があり、その合間にクイズ形式の質問を投げかけるなど、楽しく行っていた。

○C委員

サークル見学体験会（ひばりが丘）について、担当の考察・課題欄に「5月と6月に実施したが、6月の参加者は5月から継続参加する人がほとんどで、2か月開催する意味がないと判断した」とある。参加者の評価欄の感想を読むと、昔やったことがあるけど久々にやったというものや、必ずしもサークルに入るという感じではない気分で楽しんでいるような様子がある。サークル見学体験会は、会員が減ってきているサークルを応援するかたちで展開していたが、それだけでなく、地域の人にとっては、ちょっとやってみたいという感じでいろいろなサークルに参加して楽しみ、そのサークルの人と親しくなるといったことがあるのではないかと考えた。2か月開催しても同じ人が参加して意味がないという捉え方は、この事業の良さを、面白く発展させていくことができる良さをつぶしてしまうのではないかと懸念した。

○事業係長

私も、その点については違和感を感じていた。サークル見学体験会は、始めにオープニングミニコンサートを行い、その後に、大きな部屋を4つに区切って、4つのサークルの活動を体験するという形で行った。申込制ではなかったが、当日、34人の方が集まり、楽しんでいた。その楽しさもあって、こういう感じで参加してもいいんだということで、2か月勢いが続いたのではないかと考える。C委員のご指摘のとおり、サークルの会員募集をサポートするという目的もあるが、気軽に体験でき、そこで交流が生まれ、最終的にサークルに入る方もいるかもしれない。C委員の発言を聞いて、意味がないとやめるのではなく、そこに可能性を見出して発

展させていくことができると思った。担当と相談させていただきたい。

(2) 令和6年度公民館主催事業計画について(資料2)

○B委員

サロンコンサート「冬に舞う東風の便り～子どもから大人まで本格的なクラシックコンサート～」(芝久保)について。今回、前期開催のサロンコンサート「トリオで奏でる世代を超えた名曲たち～クラシックから J-POP まで～」の事業報告書が提出されているが、小学生から 80 代までまんべんなく多世代の方が参加している。担当の考察・課題欄には、子どもたちにも生演奏を聴く機会になればと考えていたと書かれている。これを受けての企画かと思う。「乳幼児も参加可能なコンサートとする」とあるが、具体的なイメージを教えていただきたい。

○分館長(芝久保)

サブタイトルは「子どもから大人まで」となっているが、イメージとしては、0 歳児から参加できる方向で、乳幼児と保護者が本格的なクラシック音楽を聴くことができるコンサートを想定している。もともと出演者は、本格的なクラシックから子ども向けの曲まで演奏していて、幅広い世代の方が参加できるというスタンスで計画している。

○B委員

乳幼児は演奏中に急に泣いてしまう可能性が高いと思う。バギーで会場に一緒に入るのか、保護者の膝の上で聴くのか、乳幼児も参加していいですよというアピールをしていくのか、子どもから大人までの参加を受け入れるとすると、その配慮が難しいと思った。私は人形劇をしていて、乳幼児にも見てもらいたいと思うが、親は赤ちゃんが泣いてもそこにずっといたい、聞かせたいと思う。そういう中で、子どもが泣いた場合は一旦外に出て、気持ちを切り替えてくださいという説明をしている。乳幼児がいる親だけでなく一般の方も聞いているところの難しさもあるので、事前に職員の中で配慮して進めてもらえたらいいかなと思う。

○分館長(芝久保)

B 委員のご指摘は想定しており、工夫して対応できればと考えている。また、何かアドバイス等いただけたら、それも踏まえて工夫したい。館内で検討、調整した上で、実施させていただく予定である。

○C委員

関連して、前期開催のサロンコンサートの事業報告書には、児童も対象として考えていたが、参加児童は少なかったため、周知等の対応を考えていく必要があると書いてある。今回は、どういうふうに工夫しようとしているのか。それとともに、「どうぞいらしてください」といっても乳幼児がいる方は参加を控えてしまう可能性がある。また、前期のコンサートの感想に「年2回と言わず、回数を増やしてほしい」とあるように、コンサートそのものを期待している方もいる。両方が納得するかたちで、乳幼児や子ども連れでも安心して参加できるということをどう広報するのかが、前期のコンサートからの課題になっていると思う。新しいアイデアを出して、実験してみたいと思う。

○I委員

サロンコンサート(芝久保)について、対象を「子どもから大人まで」とすると、本格的に演奏を聴きたい人がくると思う。「0 歳児から」とすると、みな、小さい子どもが来るんだという覚悟をして参加すると思う。0 歳児からのコンサートをしている楽団があるが、赤ちゃんのいる父母たちには、そういう場に行きたいという願望があり、人気がある。前半だけ聞いて途中で帰る方もいて、参加の仕方は自由。「子どもから大人まで」とすると、演奏をちゃんと聴きたいという人も来ると思う。

○H委員

今、聴く方の視点で話をしているが、演奏される方からすると、どうなのか。赤ちゃん連れですぐに退場した場合、演奏する方の気持ちはどうか。

○I委員

演奏する立場からすると最初からそういうコンサートだと言われれば、そのようにプログラムを作り、騒いでも別に気にしない。そういうコンサートをして欲しいと言われればそのようにするので、大丈夫だと思う。

○B委員

時間が1時間あれば、前半は子ども向け、後半は聴かせるというふうに分ける方法もあるのではないかと。1時間聴かなくても、30分でも15分でも聴くことができれば、0歳児のいる親御さんが癒されるのではないかと。

○C委員

現代社会を考える講座「歴史に学ぶ現代社会のしくみ4～1970年代・1980年代から考える～」(柳沢)について、こういうしっかりとした講座を継続して位置付けて実施し、参加者もいるというのは、蓄積があってできることかと思う。これまでの参加者が企画しているということだが、頑張っていて欲しいという気がする。西東京市でいろいろなタイプの事業が行われている中、こういうものがもう1つか2つあるといいと思う。他のところでも資料をもとに学んでいくという講座があるので、大事にしていって欲しい。継続して実施していくとよいと思う。

○B委員

事前の準備も含め、何度も集まってこういう丁寧な事業をされているので、応援していきたいと思う。

3 報告事項

(1) 行政報告

○公民館長

教育委員会が9月21日にあり、議会の一般質問で教育委員会に関する質疑の概要を説明した。また、9月の公運審で説明した「まちなか先生」と主権者教育の報告をした。議会については、決算特別委員会で令和5年度決算の審議があり、最終日に谷戸公民館や他の公共施設の周年行事の捉え方に関する質問があり、実行委員会形式で市民のお力添えをいただきながら一緒に祝うということで大切にしている行事であると答弁した。

(2) 公民館だより編集室報告

- 担当委員より10月7日開催の公民館だより編集室会議について報告。1月1日号及び2月1日号の特集について検討した。

(3) 東京都公民館連絡協議会委員部会運営委員会報告

- 担当委員より9月26日開催の委員部会運営委員会について報告
- 10月26日開催予定の委員部会研修会の概要説明と協力依頼

4 事務連絡及び情報交換

(1) 令和6年度第1回利用者懇談会について

- 柳沢・芝久保・谷戸・ひばりが丘公民館の利用者懇談会について、参加した委員より報告

(2) 東京都公民館連絡協議会委員部会研修会について

- 委員の出欠を確認

(3) 令和6年度西東京市公民館運営審議会委員研修について

- 12月18日(水)18時30分から柳沢公民館視聴覚室で開催予定

(4) その他

- 利用者懇談会や地域交流事業等で行う公民館サポーターへの参加の呼びかけについて確認

(5) 令和6年度第7回定例会の開催について

日時：令和6年11月20日(水)午後6時30分

場所：柳沢公民館 視聴覚室